

委員会視察成果報告書

令和6年11月 / 日

犬山市議会議長

議員名 島田 重幸

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和6年 10月 23日(水) ~ 6年 10月 24日(木) (泊 2日)
(2) 視 察 地	京都府舞鶴市、大阪府八尾市
(3) 視察の種類	常任・特別 委員会 (民生文教 委員会)
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	舞鶴市 休日の部活動を地域クラブ活動へ移行する 実証事業について 令和5年度から取り組んでおり今年度は、「年間を通して 取り組む種目」柔道、剣道、合気道、「期間を決めて取り 組む種目」各競技団体等と言語、吹奏楽、「イベント的に 取り組む種目」基礎部活、華道、茶道、将棋などに合気 運動競技種目だけでなく文化的な活動も実証事業を実施 し、今後のあり方を検討されています。今年8月には、部活 顧問、指導者、活動に興味があるお団体連盟の関係者が集まり 連携のための説明会と意見交換会が行われました。今年度末には 「中継計画策定」され令和7・8年度には休日の学校部活動の停 止を目指し本格移行へ。 令和7年度入学の生徒(現小学6年生)が2年生の2学期に新チームにな った時に本格移行できるように各競技ごとに活動の場を整え準備されてい
(5) 犬 山 市 に 対する提言	基礎部活には、基礎トレーニング事業とやる部活動事業で楽しく 身体を動かす部活動と位置づけ運動が苦手な子どもたち、ハン デを抱えている子どもたちでも取り組める様々な種目を実施。 ボッチャ、キンボール、モバック等のニュースポーツを取り入れています。 どのような子どもでも楽しめることになり活動に参加できるよう 犬山市としても、その様なものも取り入れたいと考えています。



委員会視察成果報告書

令和6年11月 / 日

犬山市議会議長

柴田 浩行様

議員名 島田 亜希

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和6年 10月 23日(水) ~ 6年 10月 24日(木) (泊 2日)
(2) 視 察 地	京都府舞鶴市、大阪府八尾市
(3) 視察の種類	常任・特別 委員会 (民生文教 委員会)
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	八尾市 重層的支援体制整備事業について 令和2年のコロナ禍での10万円給付の時に、未申請者が3000人いました。その中でも40.50代の単身男性の方が多く見え、生きづらさを感じ申請できていないところを最終的には市民の99.98%の状況を把握し、130世帯以上の方に会えたとのこと。 令和3年4月には地域共生推進課 つながる支援室 重層的支援体制整備移行準備を開始。生活困窮担当がつけられました。8050品貸出や支援することが複雑に絡み合っている。窓口へ相談に行っても一旦は受け止めるということとされている。まずは各部署にお話、お願い(この整備事業をすることによってそれぞれの仕事もやりやすくなる。つながる会議(個別支援会議)の開催には、民間18、行政機関18、教育機関6の42機関が連携して行われている。支援される人から支援する人へと担い手になっている。
(5) 犬山市に 対する提言	八尾市は「誰ひとり取り残さない、(あわせを感じる)共生のまちづくりおせっかい 日本一をめざし」との事業が行われています。 窓口に見えた時「窓口対応スキルアップツール」という書面があり ①身だしなみから始まり13項目あります。八尾市での取組を参考に犬山市でも各専門分野の力で連携し、この事業を展開し、市民の皆様を支援していくことが重要な事と考えます。

委員会視察成果報告書

令和6年11月 / 日

犬山市議会議長

柴田 浩行様

議員名 島田 亜希己

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和6年 10月 23日(水) ~ 6年 10月 24日(木) (泊 2日)
(2) 視 察 地	京都府舞鶴市、大阪府八尾市
(3) 視察の種類	常任・特別 委員会 (民生文教 委員会)
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	八尾市 中学校の部活動改革に向けた令和6年度モデル事業の実施について 令和6年度は中学校の部活動改革を円滑に進めていくために、様々な課題を検証し、実情に応じた年度設計につなげていくことを目的にモデル事業を実施されている。サッカー、男子野球は地域クラブ活動で民間事業者を指導者に兼職兼業の教職員を含む体制で単独校、合同チームで行い。吹奏楽は、学校部活動の地域連携で地域楽団を指導者におき単独校で行われている。 スポーツデータバンク株式会社が開発管理し、コミュニケーションアプリを活用した出入確認等をしている。9月から実証実験しているが大きな混乱もなく、子どもたちは他の学校の子と交流できたりとプラスに考えてくれている。
(5) 犬山市に 対する提言	様々な視察をさせていただき、犬山市の子どもたちの声をきき活動ができる様にしていくことが一番大事だと感じました。 地域の人材の活用や大学とも連携を図り個々の活動の状況に応じて適切な指導者を安定態様に配置できるよう多様な人材を受け入れるための仕組みづくりを推進していくべきと考えます。